

令和4年度 学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

目指す学校像 志木高スピリット（立志・言志・統志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割以上)
	C 変化の兆し(4割以上)
	D 不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 9名 生徒 3名 事務局(教職員) 10名
-----	-----------------------------------

年度		学 校 自 己 評 価		年 度 評 価（2月 3日 現在）		学 校 関 係 者 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 新型コロナウイルス感染症下で、ICTを活用した教育活動を推進し、授業時数と質の確保に努めた。全職員がICTを使用した授業や、技術力を持ち基礎力の定着と学力の向上への指導の実践を行っている。</p> <p>【課題】 学習習慣の定着、家庭学習時間の増加は依然として大きな課題であり、改善に向けた取り組みを検討する必要がある。また、観点別評価を取り入れた学習指導と学習評価、個に応じた基礎学力の定着と学力の向上への指導の実践を行っている。</p>	「学習習慣の確立」と授業改善	<ol style="list-style-type: none"> 教科書を超え教員同士高めのあう授業公開週間(年2回)を実施する。 ②各YOD、ICTを活用し学習効果を高め、更なる授業の工夫改善を進める。 保護者向けにシラバスやまなびの手引きを配布、活用徹底と連携した家庭学習を推進し、各教科で4新しい視点別評価項目を1冊として、各教科で検証を行い、校内での研修会を通じて評価及び授業改善を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 意見交換や参加保護者のアンケートの結果状況 ①年2回の授業公開に合わせて授業改善(12名)及び職員研修及び研究協議の授業公開に合わせたオンライン授業を実施し ②コロナや登校等で登校できない生徒に対しオンライン授業を実施し学習を保障。 ③「まなびの手引き」を活用し、適切な類型・科目選択に向けた体系的な履修指導を実施。 ④授業研究会の活動状況及び各教科、教育課程委員会での新教育課程、観点別評価の検討。 	<p>【学習習慣の確立と授業改善ができた】 ①年2回の授業公開に合わせた授業改善(12名)及び職員研修及び研究協議の授業公開に合わせたオンライン授業を実施し ②コロナや登校等で登校できない生徒に対しオンライン授業を実施し学習を保障。 ③「まなびの手引き」を活用し、適切な類型・科目選択に向けた体系的な履修指導を実施。 ④観点別評価の実践を1学期終了後、研修を開催し振り返り、内規の検証を実施。</p>	A	<p>今年度もコロナが原因で学期閉鎖や学年閉鎖があった。学年終了からスムーズなオンライン授業を実施し、学習を保障することができた。次年度は1年生一人一台端末が導入されるため一層のICT活用スキル水準を高める必要がある。</p> <p>科目において目標、評価基準等を明確にし、学習計画や評価方法を改善し、指導と評価の一体化を図ることができた。次年度は2学年で実施される新課程へ職員の共通理解が必要である。</p>	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>次年度はコロナも落ち着き通常の授業を実施できるようになる見通しである。志木高校では分業、学年生もICTに関する内容が入っている。国の施策は理系に偏強しようとしている。理系が突出しているという意識をしっかりともち、志木高校の取り組みは間違っていないので安心して進めてほしい。</p>
2	<p>【現状】 生徒の進路希望は多様であるが、大学進学希望者は年々増加傾向にある。生徒は与えられた問題に答えることと慣れているが、答え以外のことに向き合う事は不慣れで受け身の姿勢の促されられる。</p> <p>【課題】 生徒一人一人の可能性や適性に応じた、より深い目標を目指すための探究が必要である。また多様な進路希望に応えられる、生徒に主体的な力を持たせる指導の向上を図る必要がある。</p>	生徒の進路実現を図り、セルフマネジメント力の育成に向けた指導体制の取組	<ol style="list-style-type: none"> ①継続的かつ継続的に3年間を通じた進路指導を行うとともに、生徒・保護者へ十分な情報提供を行い、進路意識を高め主体的に進路実現できる生徒を育てる。 ②大学進学希望者に対する個別対応と進路相談、公務員、民間就職も含めた、全ての生徒に希望進路実現に向けた指導を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①-1 生徒の主体性を育む各学年進路行事と分野別指導・説明会等の実施状況 ①-2 進路の手引きや進路啓発資料の活用状況 ②生徒の進路希望状況と実現状況。大学受験や公務員試験受験への目標に向けた取組状況。補習、面接、小論文等の指導実施状況。生徒・保護者の進路指導満足状況 	<p>【継続的かつ継続的に3年間を通じた進路指導により、セルフマネジメント力育成体制が定着してきた】 ①-1 19年度で職業別別AIシステム、2学年で上級生の体験試、3学年で①分野別別試的な体験活動に進行中 ①-2 「進路の手引き」「まなびの手引き」を活用し進路啓発活動と連携し進路指導に活用 ②進路希望22職種への282名参加(前年度288職種302名) ③進路ガイダンスが予定通り実施され、参加者増加している。保護者も満足している。まなびの手引きは2022年度は2%の保護者88.2% ③手帳活用アンケート「週に1回以上67.9%」昨年38%。生徒向け手帳活用を6回実施 ④進路ガイダンス「主体的な授業への取り組み」 ④教育課程委員会が中心となり、各教科協力により「教科横断プロジェクト」を立ち上げ、2学期に職員研修会を行い、3学期に授業を実施。</p>	A	<p>19年度から探求の時間が設けられるため、段階的にテーマを決めて主体的な活動だけでなく探求の手法を身に付けさせることができた。また、1年次の早期からのキャリア教育を行い、外部テストの受験を積極的に働きかけ、進路に対する意識づけを行っていた。働きかけにより進路試験受験者(4月)は昨年度比18人から今年度1年生は100人と大幅増加している。 ①進路ガイダンスより進路希望を明確に押し付けた。新2学年は進路希望導入となることから、生徒が自分の進路に合わせ、適切に選択ができるよう、より踏み込んだ進路指導を実施していく必要がある。進路行事、個別進路指導を効果的に進捗させていくため、教務部、学年との連携を密にし計画・実施している。</p>	<p>多様な進路希望に対して、対応することは大変であるが、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。</p> <p>文系に進学するにしても理系に進学するにしても、在中學期より勉強してほしい。</p> <p>より踏み込んだ進路指導にICTの活用を行うと、学力を伸ばすことに期待する。</p>
3	<p>【現状】 近年学校事故が落ち着いてきており指導案件も減り良好な状態である一方、生徒一人一人が抱える課題が多様化する傾向にある。</p> <p>【課題】 安心・安全な学校生活を保障するための、生徒の実態把握と、潜在化している問題を早期発見し、状況に応じた指導・支援が求められている。また、誇りと自信を持たせるため教育活動を通じて小さな「声」を認め、自立性を高める必要がある。</p>	安心・安全な学校生活の保障	<ol style="list-style-type: none"> ①情報リテラシーや公共施設、交通機関の利用マナー向上を図る。 ②登校の登校指導や様々な場面において、生徒の様子をしっかり観察し情報の収集に努め、実施を正確に把握する。 ③スクールカウンセラーや心理相談、担任との情報共有に努め、適切で細やかな指導を行う。 ④非常時に向う生徒の安全の確保する体制づくりと、生徒の防災意識の向上を図る。 ⑤スマート連絡機に付随する緊急連絡アプリ等を導入し、緊急時の迅速な情報発信を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①情報教育や交通安全教室等の実施状況 ②全学年で登校指導や挨拶の励行等統一した指導が行えたか。 ③スクールカウンセラーや心理相談、担任との情報共有に努め、適切で細やかな指導を行う。 ④非常時に向う生徒の安全の確保する体制づくりと、生徒の防災意識の向上を図る。 ⑤有用な連絡手段の導入と効果的な活用を進めることができたか。 	<p>【前に対応した支援体制、安心・安全な学校づくりが推進できた】 ①情報教育(7月、12月)、交通安全教室(9月)実施 ②年間大交通安全事故0件 ③PTA・生徒、教員の協働による交通安全指導のべ9日12箇所にて実施、教務の指導員指導実施(随時) ④部活動が増加する11月に道県選抜キャベンセーの実施。 ⑤スクールカウンセラーによるカウンセリング18回実施。のべ人数4人1月来現在 ⑥防災訓練(5月) 防災教育(7月)実施 ⑦スマート連絡機に変わる連絡ツールを決定し次年度導入決定することができた。</p>	A	<p>生徒支援部を中心とした一連の進路指導の取り組みが成果を上げている。志木高生の自信を持った行動については教員の意識と働きかけに支えられている部分が多く、生徒の自律性を高めることは課題である。 スクールカウンセラー活用体制定着。成果を上げてきた。次年度はスクールカウンセラー以外による教育相談体制を整え、よりきめ細かく不安や悩みを抱える生徒を把握し、情報共有していく体制づくりを行う。</p>	<p>生徒のどんな希望にも必ず支えるという態度が素晴らしい。生徒指導ではなく生徒支援という言葉一つで大きく変わるのだと感じた。</p> <p>自転車通学については、9割以上というように驚いた。自転車通学についてには近隣に住んでいるため、様々な評判も聞いている。遅刻の指導によって、危うく事故にあっけそうもなかった。安全に配慮しながらの指導を考えるとよい。</p>
4	<p>【現状】 財助合の精神がある風通しの良い職場環境であり、生徒との関係性も良い魅力がある学校であるが、教職員の質的な向上活動が滞りつつある。</p> <p>【課題】 教職員が自らの専門性を最大限発揮することができるようにするために、教職員の成長に資する活動や、生徒や部活動等における学校外関係と連携した活動を行う。 ③様々なメディアを活用して本校の魅力を情報発信し、中学生や地域の人の理解促進を図る。 ④PTAや関係機関との連携を深めながら50周年記念事業の準備を進める。</p>	チームで取り組む業務改善・職場環境の整備による魅力ある高校づくり	<ol style="list-style-type: none"> ①-1 学校における働き方改革基本方針に則り業務内容や業務の進め方を見直し改善が進んだか。 ①-2 教職員の悩みを吸い上げ、企画委員会、衛生委員会、保健室等を通じてチームで解決を図れたか。 ②継続している支援の状況とICTの活用等各校務の効率化が図れたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒が主体となって行事等の運営が図れたか。 ②部活動加入状況や各種課外活動の内容と取組状況 ③(宗務)リンクス、コスモス植栽、地球清浄、募金活動等社会貢献活動、ボランティア活動への参加状況 	<p>【生徒の創意工夫と自主性を引き出すことができた】 ①学校行事を生徒が主体的に運営する体制づくりを進め、学校行事と委員会の関係性を再構築した。「学校行事に積極的に取り組んでいる」生徒87.7% ②部活動加入状況は1年生98%、2年生98%、3年生85% ③部活動に意欲的に取り組んでいる」生徒83.3% ③ボランティアによる地域活動は継続的に取り組まれた。</p>	A	<p>「志木中学生的な学習サポート事業」は中高連携事業の事例として、埼玉県・埼玉県内にも取り上げられた。志木高生の意義を感じられるものもあり、次年度へ継続していきたい。 部活動の加入率は学年が上がるにつれ低下しているが、部活動の増強等により、部活動の活性化が必要である。</p>	<p>志木市学習サポート事業では志木高校の生徒は明るく、良い生徒であると感した。多くの生徒が参加してくれてありがたかった。歳の近い高校生から生徒であることで中学生の学力を向上させることができ、良い事業であった。今後も継続していきたい。</p>
	<p>【現状】 財助合の精神がある風通しの良い職場環境であり、生徒との関係性も良い魅力がある学校であるが、教職員の質的な向上活動が滞りつつある。</p> <p>【課題】 教職員が自らの専門性を最大限発揮することができるようにするために、教職員の成長に資する活動や、生徒や部活動等における学校外関係と連携した活動を行う。 ③様々なメディアを活用して本校の魅力を情報発信し、中学生や地域の人の理解促進を図る。 ④PTAや関係機関との連携を深めながら50周年記念事業の準備を進める。</p>	チームで取り組む業務改善・職場環境の整備による魅力ある高校づくり	<ol style="list-style-type: none"> ①-1 学校における働き方改革基本方針に則り業務内容や業務の進め方を見直し改善が進んだか。 ①-2 教職員の悩みを吸い上げ、企画委員会、衛生委員会、保健室等を通じてチームで解決を図れたか。 ②継続している支援の状況とICTの活用等各校務の効率化が図れたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①全職員の協力により、学校説明会等を開催できた ②本町の各種行事や、各種行事を通じて、生徒会や部活動等における学校外関係と連携した活動を行う。 ③様々なメディアを活用して本校の魅力を情報発信し、中学生や地域の人の理解促進を図る。 ④PTAや関係機関との連携を深めながら50周年記念事業の準備を進める。 	<p>【様々な媒介を通じて保護者、地域に向け本校の魅力を発信できた】 ①PTA・学校説明会4回、部活動公開4回実施726部活動 ②各校PTA年間収入114,500円(4/1〜30) 1日平均310円 近況中報、進への資料送付。志木駅や高尾駅へのポスター掲示実施。志木市広報誌への掲載実施 ③PTA活動は本部、各委員会との連絡をこまめにし、学校と協力体制で円滑に実施。50周年記念事業は準備委員会を2回実施後、1月に実行委員会が発足した。</p>	A	<p>ここ数年学校において「働き方改革」を最重要課題の一つとして掲げている中で、なかなか決定打が出ないが、ペーパー化や職員室、準備室の職場環境を整え効率化を図りたい。生徒のために、教育効果があるものから、先ず取り戻し、優先順位づけができていく検証していく必要がある。 3年生の進路実現のための小論文や面接指導や学校説明会は分業が中心となり、全職員がチームで取り組み、効果を上げるとともに効率化を図ることができた。</p>	<p>学校と保護者の連絡ツールがありがたい。学校の働き方改革で8:30以降にしし連絡がとれなかったのでは、とてもありがたい。</p> <p>行事も滞りなくできて、学校行事がコロナ前に戻るのではないかと、創立50周年に向けて応援していきたい。</p>